



つづく つながる 夢を育てる学び舎
国立二小だより

令和8年(2026年)4月8日
国立市立国立第二小学校
校長 内田 辰彦

始まりの4月

校長 内田 辰彦

大島桜や八重桜など、白やピンクの桜の花吹雪の中、令和8年度が始まりました。今年は82名の新入生を迎え、全校で537名でのスタートとなります。今年も学校の教育目標は、「かしこく」「あたたかく」「つよく」の3つの子どもの姿としています。学校教育の中で育てる知徳体の3つの子どもの姿を教育目標としています。その中で、今年度の重点目標は昨年度までの「あたたかく」から「かしこく」とします。

これは、今年度からの2年間、国立市教育委員会研究奨励校として目前に迫っている次期学習指導要領の改訂を見据えた研究をすすめていくために設定しています。いまの小学生は大人になったとき、不確実で先の見通しがつかみにくい時代になっていくと予想されています。AIの活用がすすみ便利になっていく一方で、これまでの仕事が無くなったり、新たな仕事ができたりします。そのような中では、自らが学び続けることが大切です。自らが学び続ける力を育てるためには、小学校の段階でも自己選択・自己決定・自己調整しながら学んでいくことが必要になります。国立第二小学校では、この自己選択・自己決定・自己調整しながら学んでいける力が付くような学習について、研究・実践を深め子どもたちの力を伸ばしていきたいと考えています。二小では毎年、卒業学年の子どもたちが教育目標について、次年度の具体的な姿を考えています。その中で「かしこく」については、次のように示しています。「かしこく…落ち着いて、その場に適した判断をしよう」自らが主体的に取り組み考える姿を示していると感じました。

今年度、新校舎の工事は第2期の後半を迎えます。今年の12月末には、新しい体育館・コミュニティー棟が完成する予定です。新しい体育館・コミュニティー棟は、1階が体育館とコミュニティー関連の会議室等、2階が体育館と学童保育所、3階が管理施設、4階がプール・更衣室になっています。校舎棟からの移動は、2階の学校図書館の前を通過して体育館・コミュニティー棟に行く渡り廊下でつながります。また、二松の周りも整備されます。現在は離れた体育館のため、子どもたちも移動に苦労しているところもありますが、今年度中には解消される見込みです。コミュニティー棟ができるため、より地域と連携した教育が図れるようになること期待しています。

教育活動を充実させていくためには、教員が高い志をもち、やる気に充ちて教育に取り組むことが、何よりも大切です。よりよい教育を継続していけるようにするために、学校の働き方改革にも引き続き取り組んでいきます。これまでも行事の精選やICTを活用した学習や校務の効率化について、保護者や地域の皆様にご理解とご協力をいただきながら進めてまいりました。今年度から、東京都・国立市教育委員会が示す「学校と家庭・地域とのより良好な関係づくりに係るガイドライン」に沿って面談や電話での対応等を行わせていただきます。ご理解とご協力をいただきますよう、お願いいたします。

最後に、3学期末の3月23日と24日に「土管の築山」が、子どもたちのアイデアをもとにしてリニューアル工事をしていただきました。築山に芝生が張られ、養生期間には入らないようにするために、子どもたちが色づけした小さな柵で周りを囲っています。芝生が根付き、育っている期間は築山に登ることができる予定です。今年度も子どもたちの意見を活かした学習や環境の充実に取り組んでまいります。

令和8年度がスタートします。

